
令和3年大和町議会予算特別委員会会議録（第5号）

令和3年3月15日（月曜日）

応招委員（17名）

委員長	堀籠日出子君	委員	千坂博行君
副委員長	今野善行君	委員	渡辺良雄君
委員	穴戸一博君	委員	千坂裕春君
委員	児玉金兵衛君	委員	門間浩宇君
委員	佐々木久夫君	委員	藤巻博史君
委員	佐藤昇一君	委員	馬場久雄君
委員	今野信一君	委員	大須賀啓君
委員	犬飼克子君	委員	槻田雅之君
委員	馬場良勝君		

出席委員（17名）

委員長	堀籠日出子君	委員	千坂博行君
副委員長	今野善行君	委員	渡辺良雄君
委員	宍戸一博君	委員	千坂裕春君
委員	児玉金兵衛君	委員	門間浩宇君
委員	佐々木久夫君	委員	藤巻博史君
委員	佐藤昇一君	委員	馬場久雄君
委員	今野信一君	委員	大須賀啓君
委員	犬飼克子君	委員	槻田雅之君
委員	馬場良勝君		

欠席委員（なし）

説明のため出席した者の職氏名

町 長	浅 野 元 君	健康支援課長	櫻 井 和 彦 君
副 町 長	浅 野 喜 高 君	農林振興課長 兼農業委員会事務局長	遠 藤 秀 一 君
教 育 長	上 野 忠 弘 君	商工観光課長	浅 野 義 則 君
代表監査委員	櫻 井 貴 子 君	都 市 建 設 課 課 長	江 本 篤 夫 君
総 務 課 長	千 坂 俊 範 君	上下水道課長	蜂 谷 俊 一 君
まちづくり 政 策 課 長	千 葉 正 義 君	会 計 管 理 者 兼 会 計 課 長	吉 川 裕 幸 君
財 政 課 長	菊 地 康 弘 君	教育総務課長	文 屋 隆 義 君
税 務 課 長	千 葉 喜 一 君	生涯学習課長	瀬 戸 正 昭 君
町民生活課長	阿 部 昭 子 君	総 務 課 危 機 対 策 室 長	児 玉 安 弘 君
子 育 て 支 援 課 長	小 野 政 則 君	税 務 課 徴 収 対 策 室 室 長	遠 藤 眞 起 子 君
福 祉 課 長	蜂 谷 祐 士 君	公 民 館 長	村 田 晶 子 君

事務局出席者

議会事務局長	櫻 井 修 一	次 長	野 田 美 沙 子
主 任	渡 邊 直 人		

議事日程〔別紙〕

本日の会議に付した事件〔日程と同じ〕

委員 長 （堀籠日出子君）

皆さん、こんにちは。

少し開会予定時間より早いのですが、皆さんおそろいですので始めてよろしいでしょうか。（「はい」の声あり）

ただいまから本日の会議を開きます。

代表質疑は、総務常任委員会、社会文教常任委員会、産業建設常任委員会の順に行います。

初めに、総務常任委員会代表、2番児玉金兵衛委員。

児玉金兵衛委員

それでは、総務常任委員会を代表いたしまして、以下3件の代表質疑を開始いたします。

1件目です。にぎわい創出事業で吉岡再発見を。町中心部への図書館機能を持つ多目的施設の設置に向けた検討がいよいよ令和3年度から始まろうとしています。地域住民へのアンケートや事業検討ワークショップが主体となりますが、吉岡の魅力を再発見するために多様なコミュニティの声をいかに集約していくのか、町長のお考えをお聞かせください。

2件目です。ふるさとCM制作を職員研修に。毎年、若手職員の皆さんがみやぎふるさとCMコンテストに参加しております。CM制作の狙いをコンテストへの応募だけにとどめず、町の魅力を探すきっかけとして職員研修に取り入れてはいかがでしょうか。

3件目、消防団の担い手不足についてです。災害時代の地域防災に消防団は必要不可欠であります。団員の高齢化と充足率の低下が進む中で、後継者、担い手づくりをどのようにお考えになっておられますでしょうか。また、県内の自治体では、役場職員が消防団に参加している事例も聞き及んでおります。このような地域連携による課題解決の取組、試みをどのように捉えておりますでしょうか。

以上、3件、町長のお考えをお聞かせください。

委員 長 （堀籠日出子君）

答弁を求めます。町長浅野 元君。

町 長 （浅野 元君）

それでは、ただいまの児玉委員の質問にお答えをしたいと思います。

初めに、にぎわい創出事業で吉岡再発見を、に関するご質問にお答えします。

このにぎわい創出事業につきましては、2月26日の議会全員協議会で説明させていただき、議員の皆様方からもいろいろなご意見をいただいたところでございます。説明の中では、アンケートにつきまして総数6,000件とし、商店を含めた地域住民、子育て世帯、児童生徒等を対象に調査を行い、そのアンケートの情報も含めワークショップによる事業プラン等の可能性の検討を行うことを考えております。このワークショップの組織を考える上では、その構成委員の選出につきましていろいろな方法があると思われませんが、商店の方々を含む地域住民等から広く意見を聞くこととして、実際に施設を使用する方の目線で進めてまいりたいと考えております。

また、町内には、区長会、婦人会や商工会をはじめ、PTA、子供会、その他文化的なサークルなど多種多様なコミュニティーが存在しており、私たちが感じていない、感じていないといえますか、気づいていないといえますか、気づかなかったような、そういった吉岡のよいところ、こうなったらもっとよくなるという改善点など様々な思いを持っておられるとも考えられます。そういった思いを全てのコミュニティーから集約することは難しいところではございますが、可能な限り意見をいただけるような機会もつくっていかねばと思います。

江戸時代から続く歴史のある吉岡宿が残る映画の舞台にもなったところでもあり、そういった潜在する魅力のほか、一般的に知られていないものについての掘り起こしということも、新たな魅力となりにぎわいを生み出す要素になると考えますので、そういったニーズを把握していくように検討を進めてまいります。

次に、ふるさとCM制作を職員研修に、に関するご質問にお答えいたします。

一般質問でもお答えしたとおりであります。みやぎふるさとCM大賞への出品につきましては、平成26年度以降は採用1年目の職員が制作した作品を出品してまいりました。この大賞への参加が単に町の魅力を発信する目的であるばかりではなく、若い職員が町の魅力を新たな視点で捉えて動画を制作することによりまして、町を見て歩き、住民と出会うことにより地域を見つめ直す機会としており、新規採用職員が制作することといたしましたときから職員研修の一端と、このように捉えております。

制作は、例年4月のグループミーティングから始まり、通常業務の傍ら半年ほどをかけて作品を仕上げるスケジュールで行っており、アイデアを出し合い共同作業で一

つの作品を制作する過程は仲間意識の醸成にもつながっており、制作途中に行いますグループごとの企画構想発表では、作品の意図をスライドにまとめて発表することにより、プレゼンテーション力も養われていると考えております。

令和2年度には大賞応募作品の制作は行いませんでしたが、令和3年度には、採用後1年間の業務経験を積んだ職員により制作を予定しているところであります。今後も、座学中心の職員研修とは異なり、共同作業を実践する研修と位置づけて、職員による制作を行ってまいります。

次に、消防団の担い手不足に関するご質問にお答えをします。

本町の消防団は、昭和30年4月20日に発足、5つの分団、団員定数714名でスタートいたしました。その後、平成13年4月に初の女性消防団員10名を任命するなど、4度の改正を行い、現在の条例定数565名になったところであります。本町の条例定数565名は、県内で10番目、人数的にですね、10番目であり、令和2年10月1日現在の団員数は509名、充足率は90.27%で、県内消防団の中で14番目となっております。これに対して、県内の消防団員数は令和2年10月1日現在1万8,677人で、充足率は85.97%となっており、本町の充足率は県内平均の充足率を上回っている状況となっております。近年、本町におきましても充足率が低下しているため、消防団員の皆様に団員確保のための募集を強くお願いしておりますが、団員の確保が厳しい状況にあります。しかし、本町消防団員の皆様は強い責任感があり、退団時には後継団員を確保してから退団する努力をさせていただいておりますため、充足率が大幅に下落していないところではありますが、そのことから、なかなか退団ができずに高齢化するといったケースがあることも現実であります。本町の消防団員の平均年齢は46歳、最高年齢は70歳、最少年齢は21歳、最長勤続年数は40年となっており、若い世代でも消防団に入団していただき、地域のために活躍をいただいている状況にあります。これまで、まほろば夏まつりのときなど機会を捉えて消防団員募集を積極的に行い、その中で消防団の常日頃からの活動についてPRし、活動内容について理解を深めていただけるような活動もしておりますが、今後も消防団員の担い手不足は続くことと思われますので、これまで以上に消防団の活動内容などについてPRし、各分団に対し町と連携した消防団員募集活動に取り組んでいただけるようお願いしておりますし、住民に消防団の活動内容などについて理解を深めていただくことが重要と考えております。

次に、県内の自治体で役場職員が消防団に参加している事例に関する質問についてであります。

現在、県内4つの町で、消防団役場班として消防団員として活動している町がございます。本町におきましては、先ほど述べましたとおり、充足率が90%を超えておりますし、それぞれの分団が地域のために積極的に活動していただいておりますが、今後、各分団の活動内容、活動方法など、時代の変化とともにそのような状況になることも想定されますので、今後の状況に注視してまいりたいと考えております。

なお、現在、本町におきましては9名の職員が大和町消防団に加入し、それぞれの分団等において活動を行っているところでございます。

以上です。

委員長（堀籠日出子君）

児玉金兵衛委員。

児玉金兵衛委員

それでは、町長のご答弁を受けまして、再質問を開始いたします。

1件目です。先ほど、様々なコミュニティーの目線に立って慎重に進めながら、それでもなかなか意見を集約することの難しさというお気持ちをお聞かせいただきました。お尋ねしたいのは、まさしくそのとおりで、町民に対するアプローチの仕方、町民と対話する姿勢についてであります。アンケートや様々な切り口のワークショップの展開で町民の声を引き出して集約していくということでしょうけれども、まずその事業を展開する前に、町民に対して町長自ら何をすべきか、町民にどういふような働きかけをすべきか、どのようにお考えでしょうか。言い方を換えれば、これからその事業を受ける町民の側にとって、町民はまず何を求めているらっしゃると思われませんか。町長のお考えをお聞かせください。

2件目です。ふるさとCM活動の意義、まさしくお答えのとおりだと思います。CMイコールコマーシャルメッセージ、ふるさとCMに関して言えば、その町の魅力をコンテストで広く世に伝えることだと思いますし、もう一つ、こちらのほうが重要だと思うんですけれども、町の魅力をみんなで探し出して、それを共同作業でCM映像に仕上げていく。まさしく職員一人一人が自分の目線で町の中から魅力を探し出すと。それが職責をこれから果たしていく中でそれぞれの職員の心に大きく育つ木の種になっていくんだろうと思います。そのような職員一人一人の活動を、例えば今回のように、残念ながらコロナで活動がなかなか先に見通しが立たず、コンテスト不参加によりその体験、一人一人の体験自体もなくなってしまうのが私とても残念に思いま

した。テレビの媒体に乗せて幅広くいろんな国民の方に見てもらおうというのも一つですけれども、せっかくこのようなよい機会なので、テレビで放送せずとも町民皆さんが温かくそれを見守るような機会にしてもいいのではないかと思います。町長、このような体験、毎年重ねることは意義があることだと思います。ぜひ職員研修という意味合いを深めていただいて、CMコンテストに出す出さないかわからず、ぜひ町民との触れ合いも含めて毎年恒例の研修に仕上げただけでないでしょうか。お考えをお聞かせください。

3件目です。私も消防団勤続20年でございます。消防団も本当に価値がありまして、町民の生命、財産を守る防災減災の特に大和町は実践的な組織として、私もいつも胸を張って活動に従事しております。そして、もう一つ、町民の生活や暮らし、特にお隣同士の関わりに非常に深く溶け込んだ地域コミュニティーの機能維持の役割をしっかりと果たしている組織だと思います。消防団の組織活動にとどまらない町民の生活に溶け込んだ、いわゆる頼もしい存在であるということについて、町長、日頃のお仕事、生活の中で思い返していただいて、その消防団の存在というのを改めて実感をお聞かせいただきたいと思います。

以上3件、再質問でした。

委員長（堀籠日出子君）

町長浅野 元君。

町長（浅野 元君）

それでは、児玉委員の再質問でございます。

1件目。住民の皆さんのご意見を聞きながらというお話は、常にやっているところでございます。そういった中で、住民の方々が何を求めているというか、そういった方向性。そういったものにつきましては、基本的に言って、まちづくりというのは住民の皆さんのご意見を頂戴しながら進めていくわけですが、基本的には総合計画という大きな考え方がございます。その計画をつくるに当たっては、現在もやっているわけですが、皆さんのご意見を聞きながらという形でつくって行って、それが基本ということでもありますけれども、その段階にまず方向性を決めるということで、これまでのやり方と今後、例えば今回第5次ですけれども、ちょっと総合計画の話になっちゃいますけれどもね。そういうふうになったときに、このままでいいかどうかということいろいろご意見も聞くわけですね。今、こういう結果になってい

る。さあ、今度どうやっていこうということの方向性を決めるためのご意見を聞く場とか、そういったものもありますし、そのときに町としての基本的な考え方、こういう方向でいくんだよ、いっているんですよ、結果がこうですよ、今後こうしていきたいんですということを示していくことが大事なんだというふうに思っております。そして、そこから今度この個々の施策といいますか、なってくるわけですが、もっと絞り込んだ形になってくると思いますし、総合的な町の方向性ですね、一番示したいということは。知りたいといいますかね。そういうことだと思っておりますし、あと、それと同時に、それをやるに当たっての課題、そういったものを逆に吸い上げさせてもらうということが非常に大事だというふうに思っております。そういったことでありますので、先ほども言いました、皆さん全部から聞くというのはなかなか難しいところでもありますし、皆さんの思ったとおりの全部の方向にということではないわけですが、そういったものをできるだけ、町の考えをオープンに示して、それに対して住民の皆さんからのご意見を頂戴して、そして方向性を示していくといいますか、そういったことが大切だというふうに思っておるところでございます。

これについては、例えば町民懇談会とか、そういったこともあるんだというふうに思っております。最近なかなかできていないところがありまして、お声がけをしてもいろんな忙しさがあってとか、どうしても区長さんたち中心になっているとかということがありますので、ああいったことについてもいろいろ。今はお声がけいただければこちらから出向きますよという形でお声がけはしているんですが、現実的に、毎回、毎年、ある程度決まった団体といいますか、組織の方々からはお声がけいただくんですが、広がりがちよっとないところがありますので、そういったところの工夫も必要なんではないかというふうにも思っているところでもあります。

それから、CM大賞でございますが、これも繰り返しになるんですが、CM大賞、以前は宮城大学の方にやっていただいたり、あるいは公募して参加してもらってという方法も取っておりました。ただ、ここ数年はその1年目の新人の方々に、2年目といたしますか、何年かたった人たちが指導をしながら取り組んできたところでございます。これは最終的にはCM大賞に参加ということでございますが、おっしゃるとおりこれは町を知ってもらう、町の人にいろいろ、町を知るといのは職員ばかりではなくて、住民の方からも知ってもらう。または、町を勉強する。そういったことの研修の意味合いが大きいと今までも思っております。委員おっしゃるとおり、こういった大事な機会といいますか、せっきくの機会でもありますので、これは継続してやって

いて、職員にもあるいは住民の方にもお互いにプラスになるような活動につながってきていると思いますし、今後もそういったものを充実させてまいりたいと、こんなふうに思っております。

それから、消防団ということでございますが、消防団に対する実感といいますか、このことについては本当に大変ありがたいといいますか、そういうふうに思っております。行政で常備消防、例えば消防にすればですね。消防等々やっているわけでございますけれども、やはりいざというときというか、また、そのいざというときになる前の啓蒙活動といいますかね。そういったことにつきましては、地域の方々とか、そういった方々の力がぜひとも必要です。消防団の場合は、婦人防火クラブ等もそうでございますけれども、本当に組織でしっかりまとまって活動していただいているということ。これは団員一人一人のご協力もありますし、それぞれの役割を持った方々がそういった町を愛する気持ちをしっかり持っていただけて活動していただいているというふうに思っておりますし、頼もしく思っておりますし、感謝もしているところでございます。町としましても、そういった方々と協力をしながら、いただきながら、今後も安全な町あるいはコミュニティーの深める町にしてまいりたいというふうに考えておるところでございます。

以上です。

委員長（堀籠日出子君）

児玉金兵衛委員。

児玉金兵衛委員

それでは、3回目の質問を開始いたします。

ただいまのご答弁で、私も含めてです。私も町の中心に住まう人間として、一番この事業が始まる時に何を聞きたいかというのは、町長の町の意見、町の方向性ではなくて、町長の言葉、町長の理念、この中心部をこれからどのように育てていくか、その町長のお考え、みんな町長と対話したいんだと思います。様々なアンケートありますし、いろんなカテゴリーのワークショップもありますけれども、先ほど町民懇談会はなかなかご苦勞が多いという話もいただきましたが、この事業をまた一つの突破口にしてこの機会に幅広い町の方たちと対話を重ねて、この事業がこれからずばらしいにぎわい、成果を生み出すところまで、ぜひ町民の皆さんと一緒に導いていただきたいと心に強く思うわけであります。

続きまして、2件目です。予算委員会では、残念ながら昨年この体験を逃してしまった2年目の職員さんたちが、今回もし機会があれば制作、CMに取り組むという説明をいただきましたけれども、もし可能であれば新規採用の新人さんも含めて2年生、1年生コンビでぜひ取り組んでいただきたいと思います。コロナ禍の中、あまり行事がない中ではございましたけれども、やはり1年の職員さんの実務経験の中で、どこかしら必ずこの町のよさというものは実感されていると思います。それを後輩に伝えること、一番身近な先輩として伝えること。それは非常にいいコミュニケーションになると思います。そして、そのふるさとCM制作に取り組む若い職員さんたちの感性、そのみずみずしい感性による町の魅力の掘り起こしというのが、やはり先ほど町長もご答弁いただいたように、全く私たちが気づかない新しい視点、発想をこの町のまちづくりの政策に一つのスポットとして光を与えてくれるんだと思います。それを毎年毎年繰り返して継続していけば、やがて次の世代の担い手の掘り起こしの場にも、この研修、すばらしい研修になっていくのではないかなという期待を込めております。

3件目です。そういった実感、私もございまして、消防団全団員の方たちとの付き合いは一生の付き合いだと思っておりますし、消防団という組織の担い手不足が実はそのまま常日頃の生活のコミュニティーの年々寂しくなる状況と見事に重なりまして、毎年毎年の恒例行事や町内会での活動も含めて、少し不安に思ったりさみしく思ったりする毎日でございます。

今年10年目の節目を迎えますけれども、東日本大震災、それから、その後、度重なる様々な災害を通じて、主に首都圏を中心に、いわゆる被災地、地方、そこに飛び出して地域の役に立ちたい、社会貢献に取り組みたいという若者を中心にした人口が、最後は移住も含めて、そういう動きが加速して見られております。そういった人々のやっぱり志の中には、地域貢献、社会貢献という気持ちと同時に、やはりその防災、防災の役に立ちたいという気持ちもどこかしら必ず持っていると思います。今までのこのコミュニティーの枠組みの中で、消防団を何とかこの地域の限られた垣根の中で探す、しっかり後継ぎを育てていくということももちろん大事ですけれども、これからの社会、様々な地域連携、地域外の方たちとの連携も含めて、その関係性の中で組織の意義、大切さというものをしっかり維持していくという努力も同時に必要ではないかと思うわけです。

本日3件は、まず1件目でにぎわい、地域のにぎわいをどういうふうにつくっていくかということ。2つ目で、今度は役場の担い手の人たち、若い方たちのふるさとC

M制作について。そして最後は、消防団。地域の本当に頼れる存在である消防団の担い手のお話をしました。3つの案件に共通しますことはまちづくり、私たちのまちづくりの担い手をこれからどのように発見して、そしていかに地域で育てていくかということでございます。今日は限られた時間の中ですので、これをきっかけにして私も今後一般質問の場で適時町長にお伺いして、その町長の声を地域住民の方々に伝えるべく研さんを重ねてまいります。最後に、町長、今日申しました3件について、それぞれの件につきまして町民に寄り添う思い、それから今後ご努力の気持ちを含めてご回答をいただきまして、終わりにしたいと思います。

委員 長 （堀籠日出子君）

町長浅野 元君。

町 長 （浅野 元君）

ただいまの児玉委員のご質問でございますけれども、それぞれ3つのことにつきまして、にぎわい、若手の担い手あるいは消防団の担い手等々のお考えをお伺いしました。

にぎわい等につきましては、これからそういった形でやっていくわけでございますが、その前に町長の考えを示してということもございました。町長が導くというお話もございましたが、導くということも大切だと思いますが、私も一緒にやっていきたいというふうに思っております。

そういった意味で、その意見の交換の場といいますかね、交換といいますか、意見を交わす場といえいいんですか。そういったものについての機会が非常に大切だというふうに。常日頃の普段の付き合いということはもちろんあるわけでございますけれども、そういったものプラスまた違った形でのなかなかふだん会えない人ということはないんですけれども、そういった方も大勢おいでなのは間違いございません。そういった方々ともこちらの考え、私の考えあるいは皆さんのお考えを聞く機会といったものが非常に大切だと思っておりますので、そういった意見を踏まえながら、にぎわいづくりとかといったものにつながっていくということもそのとおりだと思いますので、努力もしてまいりたいというふうに思っております。

それから、CMといいますか、若手の研修でございます。先ほど、新入生、2年生一緒にというお話もございました。これまでは新入の職員と、あと2年、3年目の経験のある職員、全員ではないのですが、そういった人がリーダーシップを取る形でグ

ループを組んでやっておるところでございます。今年度できていないところがございましたので、来年度につきましては、今年1年目の子ができなかったのも、その1年上がって2年目でというふうな考え方で今考えているところでございます。新人と2年と一緒にやる方法もあるというふうに思いますが、事業を取りかかるに当たりましてはやはりその辺の時間もあって、仕事の関係もございまして、そういった形で1課から何名もということの難しさもあるのも事実でございますので、その辺につきましてはどういった方法がいいのか。研修という場、それから若者のスキルアップあるいはコミュニケーションを深める場という意味では、大変意義のあるこの事業だというふうに思っておりますので、そういったものを踏まえてしっかりやっていきたいというふうに思っております。

それから、消防団等々につきましてでございますが、地域を越えて、そういった場所とか関係なしというのちょっと語弊あるかもしれませんが、こういった中でのやり方というか、そういうことであるというふうに思っています。地域だけにこだわっているわけではもちろんなくて、例えば企業の方とか、そういった方々に参加いただくということ、これも大変ありがたいと思っておりますし、あと今新しい地域ができてきておまして、そういうところでも積極的に消防団をつくってもらって、消防団といいますか、組織をですね。つくってもらったところがあります。なかなか団地といったところではそういった組織等はできないというふうにほかの地区で、地区とは町村ですね、聞いたこともあります。大和町の場合はそういった新しいところでも積極的な関わりを持っていただいて、参加いただいているというので感謝しているところでございます。そういった方々、思いの深い方も大勢おいででございますので、そういった方々ほか、いろんな職場とかといった方々のご協力もいただきながら、地域を越えたみんなしてそういった町をつくっていく、環境を守っていく、安全を確保していくまちづくりが目標でございますので、そういったことをなお念頭に進めてまいりたいというふうに思います。

以上です。

委員長（堀籠日出子君）

児玉金兵衛委員。

児玉金兵衛委員

以上で総務常任委員会を代表しての私の代表質疑を終了いたします。

委員長（堀籠日出子君）

これで総務常任委員会代表、2番児玉金兵衛委員の代表質疑を終わります。
次に、社会文教常任委員会代表、8番千坂博行委員。

千坂博行委員

それでは、社会文教常任委員会を代表しまして質疑いたします。

1つ目、七ツ森ハーフマラソンの開催について。令和3年の秋季に開催を予定しているとのことですが、以下3点についてお伺いします。

1、開催することでどのような効果を見込んでいるのでしょうか。

2、運営スタッフについて400人を予定しているとのことですが、積算するに当たって参考にした自治体や事例はあったのでしょうか。

3、どのような評価、検証を行うのでしょうか。

2つ目の質問です。学校ICT環境整備事業について。パソコン等の機材、ネットワーク環境は整備されているようですが、来年度から活用するには取組が遅いように感じられました。今後、早急な準備が必要と考えますので、以下2点についてお伺いします。

1、GIGAスクール構想について、どのように認識しておられるのでしょうか。

2、実際に機材等を取り扱う職員の理解度はどのようになっているのでしょうか。

以上です。

委員長（堀籠日出子君）

答弁を求めます。町長浅野 元君。

町長（浅野 元君）

それでは、ただいまの千坂委員のご質問でございます。

初めに、七ツ森ハーフマラソン大会の開催に関するご質問でございます。

七ツ森ハーフマラソン大会につきましては、東京オリンピック・パラリンピック開催を契機にスポーツ施策に対する機運が高まる中で、2020年に大和町は町政施行65周年、富谷市は富谷宿開宿400年を迎えますことから、新たな町民、市民参加型スポーツの祭典として七ツ森ハーフマラソン大会の共同開催を計画いたしましたところでございます。昨年、新型コロナウイルス感染症によりまして本大会を延期いたしました。

実行委員会を主体として準備を進めながら、令和3年秋季に改めて開催することといたしました。

1 要旨目の開催することでどのような効果を見込んでいるかにつきましては、大会開催により、生涯スポーツの振興はもとより、マラソンを通しての参加者の心と体の健康増進、人と人との交流やつながり、親子マラソンでは親子が一体となりゴールを目指すことで、より一層家族の絆が深まることが期待されます。また、町のシンボル七ツ森、主要観光地であります南川湖畔公園周辺をコースとしていること。そして、沿道やゴール付近に予定する地場産品や地元企業コーナーのブースにより、参加される多くの町内外の方々へ大和町の魅力をPRすることができ、再び来町される機会など交流人口の増加につながるものと考えております。出店やバス輸送につきましても地元業者に委託するとともに、本大会は、多数の参加者や応援者が来られることで、町内商店や宿泊所をご利用いただくことで経済的効果も見込め、地域活性化につながるものと思っております。

次に、2 要旨目の運営スタッフ積算について、参考とした事例等についてであります。

運営スタッフの積算につきましては、令和元年に山形県寒河江市のさがえさくらんぼマラソン大会、参加者が3,200人規模でございますが、その寒河江市。それから、栗原市、これは栗原ハーフマラソン大会、参加者1,900人規模。これを事務局で視察し、また専門業者にも意見を聞きまして400人ほどと積算いたしましたものでございます。大会の規模のほか、コースの市街地であったり、周辺の道路事情等によりまして運営スタッフの人数は変わってくる場所でもあります。

なお、大会運営につきましては、大和町、富谷市、実行委員会を構成しておりますスポーツ協会、スポーツ推進委員、交通指導隊、行政区、商工会等の各種団体、組織のご協力もいただきながら、運営、警備の各民間委託業者に加わってもらうこととしております。

また、スポーツボランティアS V2004、これは宮城県を中心にスポーツ文化の振興のために活動する市民グループと聞いておりますが、このの方々にもご協力をいただきまして、個人ボランティアの募集も行う予定としております。

職員につきましては、主に受付、案内、コース沿道、給水所、救護所等各部署の責任者として、ボランティアスタッフ等の方々と協力して大会運営をお願いする予定であります。

続きまして、3 要旨目のどのような評価、検証を行うのかについてであります。

評価、検証につきましては、実行委員会や運営に携わったスタッフやボランティアの意見を聞くとともに、会場にアンケート用紙を設置するなどして参加者の意見を集めてまいります。また、参加者からは、インターネット上で大会についての書き込みや評価ができますので、それによつての検証も行っていきたいと考えております。今後、インターネットでの大会ホームページ、ポスター、チラシ、メディアの活用等により、多くの皆様に参加いただけますよう町内外に幅広く大会をPRしながら、大会開催が大和町を全国に発信する新たな機会ともなりますことから、大会が盛会裏に開催できるよう準備を進めてまいりたいと思います。

次に、学校ICT環境整備事業についてに関するご質問にお答えします。

これまで大和町では、学校ICT環境整備事業は、教育の情報化加速化プラン、これは平成28年7月に文科省が策定しておりますが、このプラン及び大和町教育情報化推進計画、これは平成29年12月に策定しておりますが、この計画に基づきまして、各学校に教育用コンピューターやICTソフト等の整備、充実を図り、デジタル教科書や問題データベース、これ問題集ですが、を効果的に活用し、分かる授業の実践に取り組み、児童生徒の学習意欲の向上を図ってまいりました。そして、ICT環境の整備につきましては、令和元年12月に令和時代のスタンダードとしての1人1台端末環境について文部科学省から示され、現在に至っております。

初めに、GIGAスクール構想についてのご質問であります。文部科学省のGIGAスクール構想は、児童生徒1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、多様な子供たち一人一人に個別最適化され、資質、能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する。それから、これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、教師、児童生徒の力を最大限に引き出す。このことを目的としております。町におきましても同様に認識し、目的を達成させるため、現在、小中学校校内通信ネットワーク及び電源キャビネットの整備と、令和5年度までの達成を目指していた学習者用端末の整備及び使用ソフトの準備を令和2年度に前倒しをして、令和3年度から活用できる環境にしております。

次に、機材等を取り扱う職員の理解度についてであります。教職員を対象に昨年7月からタブレット、これはクロームブックの基本操作の体験、ジースイートフォーエデュケーションを活用したオンライン教育の操作及び演習、ジースイートフォーエデュケーション・キックスタートプログラムの基礎知識取得のプレ研修及び主要サービスの操作方法取得のコア研修などを合わせて、5回研修会を開催しております。今後は、ジースイートフォーエデュケーション・キックスタートプログラムアドバンス

研修でのワークショップや実践的な活用方法の取得、指導者用デジタル教科書を用いた1人1台環境下での使用研修などを開催し、引き続き教職員の理解度を高めるための指導、支援に努めてまいります。

以上です。

委員長（堀籠日出子君）

千坂博行委員。

千坂博行委員

それでは、再質問をさせていただきます。

まず、1件目の七ツ森ハーフマラソン開催についてでございますが、昨年、コロナの影響で1年延びたということで、期間的にはいろいろ考える時間あったと思いますし、当初から考えていたこととちょっと違っている部分、例えば環境が変わってきた、ウイズコロナでやり方が変わってきた等々、変わってくるところがあると思うんです。この参考にされた寒河江市さん、栗原市等々、いろいろコースも違えば、運営の仕方もちょっと違ったりしていれば人数的には変わってきたりもすると思うんですが、その中でもちょっと重要だと思うのが、共同開催ですので、スタート地点というのが2か所あって、大和はハーフのほうで1,200人、10キロのほうで600人ですか。ごめんなさい、これ逆ですね。富谷のほうで1,800人、大和のほうで3キロ300名と親子のほうで400名、700人ということで、開催が振り分けられております。この意図するところ、この割合どのようになっているか、この効果に結びつくものなのかというところ、もしも今現在分かるのであれば、まず一つ教えていただきたいというところがあります。

それと、スタッフのほうに関しても、ボランティアを募るということですので、ボランティアも当然必要だと思いますし、職員の方も参加されるということでありました。民間の企業なんかでも普通に、例えば自社で運動会をやるといっても、いろんなスタッフ自分たちでやるというのは、これは当たり前でもございますし、そういう意味では関わりというのももちろんあっていいのかなと思いますし、町民と交流という意味でもいいのかなと私は思います。

ただ、強制にならないかというのだけはすごく懸念するところがありまして、例えば若い職員さんがそのまま出るようになっているとか。そういったところは、やっぱり最初ですので、すごく心配に思うところありますので、その辺をもうちょっとどう

いうふうに、代表質問の際には、代休の取得だったり時間外というお話も出てきております。明確にして安心して参加できるようにという意味で、その辺もう少し詳しくお伺いしたいところです。

これ、1点目、2点目を合わせて、3つ目のどう最後に評価するか、検証するかということなんですが、インターネットでの回答というふうにおっしゃられました。インターネット上ということですね。自主的に発信してもらおうというやり方だと、これは回答するかしないかなりから始まっちゃうと思うんですが、もっと多角的に目線を変えてというようなところで全員とか。そういったところからやらないと、やっぱり見えてこないところもあると思うんですよね。そういう意味で、このもうちょっと何かあってもいいんじゃないかなという気がしますので、その辺もし代替案といいますか、あるのであればお答えいただきたいところであります。

2点目、学校ICTの環境整備事業についてですが、いろいろパソコン等、高価なものですので、去年、おとしぐらいですか、パソコン教室にコンピューターを入れたりもしておりました。その次に、すぐICT、GIGAスクール構想ということで始まったわけですが、今回はクロームブックということで、グーグルのOSを使ってやるようになると思われまます。

もう研修、既に5回ほどやられているということだったんですが、これ技術的なことを言うつもりは何もないんです。ただ、使い方に関しては、物によって違ってきますので、どの辺まで理解されているのか。要するに、ほかの自治体では、持ち帰って宿題だったり、使い方としてみれば保護者との連絡用に使ったりとか、いろんな使い方されていると思うんですよね。このポケットWi-Fiも整備されたということで、要するに貸出しをしてということは、イコール持って帰っていろいろやるのかなというイメージもありますが、これやり方とすれば、クロームOSですので、うちにあるパソコンからでもアクセスできるんですよね。一人一人アカウントで管理されると思うんです。そういう意味では、使い方、よくよく考えていただければ重い物を持って歩かなくていいよという話だったり、あとは、テストの結果ももう直接保護者に見せる、通達できるといったりとかですね。その辺どこまで理解されているのかなというのをやらないと、無駄な動きになってしまうんじゃないかなと感じるところがありまして、使い方、あとは、情報のモラルの管理ですね。情報モラル管理、これ、すごく大事だと思っていて、何か新しいところが始まると、例えばLINEとかですね、そういった新しいサービスが始まると問題も出てくるという意味では、最初にルールをつくって運用しないといけないというのは根底にありまして、そこがやっ

ぱり一番懸念するところでもあります。

そういう意味で、この2番目の職員の方々どこまで理解しているのかなというのは、これ、個人、結局、例えば運営は学校になると思うんですよね。学校に任せるといふふうになるとちょっと個人的に思っちゃうんです。ただ、そうした場合、担当の先生の個人スキルによるものが大きいと思うんですよね。そういう意味で、どこまで標準的にできるかというのは、やっぱり教育委員会といいますか、ある程度下地をつくってやらないと、任せますよではやっぱり問題が起きると私は思っていますので、その辺の対応ですね。実際、内容までここではお話しできないとは思いますが、どのように考えていらっしゃるのかももう一度お願いします。

委員長（堀籠日出子君）

町長浅野 元君。

町長（浅野 元君）

まず初めに、マラソンのほうでございますけれども、スタートが2か所といいますか、ハーフと10キロと、そして親子とか違うと。これは、コースの関係上ゴールを1か所にするということですので、どちらからスタートして、そちらにゴールということで考えたときに、ハーフとかは戻るのではなくて回ってゴールする。スタート、ゴールが違う。あと、親子とかというのは、距離が短いものですから、こう戻ってという、そういった形のコースの設定になりました。ゴールとスタート、どっちをやるとかという問題もいろいろあったわけです。どちら、スタートを大和町にして、ゴールを富谷さんにするとかですね。そういったこともあったわけですが、今回は第1回目といいますか、今回についてはそういった形で富谷さんのスタートの部分と大和町のスタートの部分に2つに分けてやったということでございます。何で2つに分けたかというと、先ほど言ったとおり行って帰ってくる、ゴールを一つにしたという考え方でございます。

効果というものにつきましては、1か所でやったほうが効果があるとか、いろんなことがあるというふうに思いますが、今回は2市町、2つでやっているわけでございますので、2か所。両方にそういった意義といいますか、そういったものが出てくるようにという考えでありますので、2か所になっております。

それから、スタッフにつきまして強制とかということについては、強制という言葉はないというふうに思っております。代休制とか、その方法についてはいろいろ特別

委員会でもご質問あったというふうに思っておりますが、最終的には、富谷市さんもやるわけでございますので、その辺の連携を取った形での対応になってくるというふうに思っております。

あと、企業さんからの応援といいますか、そういったことは、お声がけしてご協力いただけるのであればそんなありがたいことはございませんので、そのことがいろんな意味での交流にもつながってくるということもありますので、ぜひそういったこともお願いしたいといいますか、ご協力いただけるのであればそれは、ぜひご協力いただきたいというふうにも思います。

それから、効果といいますか、につきまして、インターネットということを申し上げます。申込みサイトのほうからできるという形で先ほど申し上げたところでございます。全員からのそういったものというのが必要ではないかと、これについては例えば出場したときのアンケートとか、そういったこともあるというふうに思いますが、今後、そんな検証する方法につきましても、まだ最終決定ではございませんので、関係者の方々、あるいはそういった専門といった方にも今お願いしているわけでございますので、いろんな意見を聞きながらやっていきたいというふうに思っております。今後、まだ最終決定でないので、参考にさせていただきたいというふうに思います。

それから、GIGAスクールのほうですけれども、これにつきましては、いろいろ今やっておるということは申し上げたところでございます。ルールが必要だというのはそのとおりだと、もちろんそうだというふうに思っておりますので、そういったものはしっかり決めた中での運営といいますか、使用になってくるというふうに思っております。

先生方のスキルという形で先ほどちょっと申し上げましたが、今、いろいろ成果として、今リモートの代表委員会とか、児童集会とか、そういったもので実際に実行している部分もあるというふうに聞いております。これでまだまだ、十分かといったら、そのまだ不十分なところはこれからまた勉強してもらわなきゃいけないというふうには思っておりますが、そういったものについては、情報の漏えいとか、個人情報の問題とかは大変大切な問題でありますので、そういったことをしっかりきちっとした中で進めていかなければいけないというのは本当に基本の基本だと思っておりますので、今後しっかりやっていきたいというふうに思っております。

ちょっと私のほうからはそのぐらい、そのぐらいといいますか、そういった内容での説明になると思います。

委員長（堀籠日出子君）

千坂博行委員。

千坂博行委員

再質問いたします。

まず、マラソンのほうですが、2か所の開催なのでスタートが2つというふうなお話でありました。これ、最初のほうの話で経済効果というところもあるということでは、滞在時間というのがやっぱりすごく経済効果には大きく関わってくると思うんですね。スタートしてゴールが違くと、スタートに戻るわけですから、スタート地点に戻っていくという話だと思いますので、どうしてもそっちのほうの方が長いのかなとか私もちょっと考えたりもします。まず最初ですのでね、やっぱりその辺も検証、今後しなくちゃいけないところだと思うんです。お互いの市町にとってやっぱりメリットがある開催であればいいなと思うところでありまして、最初の1回目の開催ですので、そこはもう本当にやってみて検証するしかないとは思っていますので、しっかり検証していただいて、企業さんからスポンサーを募ってお金いただくのかもしれませんが、そういったこともやっぱり加味して、もちろん十分加味しているとは思いません。

最後、これ、ちょっと順番逆になって申し訳ないですけども、検証という意味ではそういったところにも、参加される方全て、要は参加者、あとはサポートする側、企業として参加される方というところからやっぱりしっかりと検証していただきたいし、これ毎年開催というように聞いておりますが、検証の結果、隔年だったり、場合によっては、ないほうがいいんですが、中止、1回単発の大会だったということもあるかもしれません。そういう思いでどこまできっちりやれるかというところを、私は検証に力を入れてほしいんですね。検証に力を入れて、いいものにしていただきたい。そういう思いですので、その辺もどのぐらい多角的にやれるかどうかというお気持ちをお伺いしたいと思います。

GIGAスクールのほうなんですけど、本当使いようによっては個別最適化されたという学びにつながりますので、去年からもう分かっていることですので、例えば夏休みにサマースクールなんかありますよね。お子さん送迎するのに、平日ですので、そういった送迎の問題だったり、あとは、もう何人という人数の限定されたもので、レベルに合わせるというようなところ。そういったところにもすごく活用できるはずな

んです。なので、これ、自治体によって取組の速さが違うと、それだけ差がつくというふうに。ここ何日か、今日ここに立つまでに時間があつたので、さらにちょっと調べてみれば、やっぱりその差というのは大きいと私はつくづく感じましたので、そういう意味でリモートで授業とか、そういうのはもうICTなしにして今仕事は成り立たないというところがすごく大きいです。やっぱり子供たちにはそれだけ使えるような技術、あとは、その環境に慣れてもらうという意味では、どこまで使うかということになると思います。

もう先生方もいろいろゆっくりはしていただけないと思うんですよね。2024年には教科書全てデジタル化というお話も出ていると思うんですが、そういった意味ではもうやらなければいけないという状況ですので、本当にここは早急にやらないと、格差といいますか、出てくるところだと思います。その辺、取組のほうをいま一度具体的に、私個人からすれば、サマースクールの際は、それやっておけば、断然今後学力に差がついてくると思うんですよね。そういったところも含めてご意見のほうをお願いします。

委員長（堀籠日出子君）

町長浅野 元君。

町長（浅野 元君）

まず、マラソンの件でございますけれども、そのとおり今回初めてのケースであります。そして、スタート、ゴールが違うといいますのも、要するに2自治体でやるというケース、あまりないというふうに聞いておりますので、こういったものでスタートするということですので、逆にいろんな魅力が出てくるというのが私はそう思っているところでございますが、課題も出てくるんだというふうに思っております。やってみてと言ったらちょっと語弊ありますけれども、準備をしっかりやって、そしてその結果については、そのとおり参加した人はもちろんですけれども、ボランティアの方々とか、例えばいろんな応援をもらった方々、企業さんとか、そういった方々のご意見といいますか、感想といいますか、そういったものは聞きながら次につなげていかなければいけないというふうに思っております。そういった検証はおっしゃるとおり非常に大事なことだと、特に、第1回目でありますので、そう認識しております。しっかりやっていきたいというふうに思います。

それから、GIGAスクールについてですが、設備等につきましては今そういう準

備を進めております。今度、運用の仕方ということだというふうに、運用と申しますか、使い方というんですかね。そういうことですので、学校側での考え方と、あと学校外と申しますか、町で事業をするときに使うサマースクールとかですね。そういったときの使い分け、使い分けと申しますか、利活用、これについては学校ともいろいろ打合せをする必要があるんだというふうに思います。みんながそういったいろんな環境で、おっしゃるとおりレベルを同じで環境でとかと、そういった非常にいい、すばらしい環境になるというふうに思っておりますが、そういった環境を構築するまでの間にはやっぱりそれなりの準備と申しますか、それが必要だというふうに思っております。今おっしゃるとおり、待ってられない時間ということなので、それについてはそうだというふうに思いますが、具体的には、その辺について教育委員会のほうからの考えもご披露させてもらいたいと思います。

委員長（堀籠日出子君）

教育長上野忠弘君。

教育長（上野忠弘君）

それでは、運用につきましてお話ししたいと思うんですが、まず前提条件というものがありまして、GIGAスクール構想の背景なんですけれども、これは、現在よく世界的に言われているSociety5.0という言葉がありますけれども、これは仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムによる人間中心の社会をつくりましょうというのが今世界的なキーワードになっております。その社会というのが、全ての人々のために、世界的な革新的な規格の異なるシステムを接続しながら、相互交流を図ることを目指すと。そのような社会の中で、現在もそうですけれども、多様な人々がいるわけです。健常者がいたり、あるいは支援を要する方がいたり、あるいは外国の方もいらっしゃると思います。特異な才能を持った方もいます。そういう様々な方々がこのSociety5.0の社会の中で生活でき、しかも新たな社会をつくり上げるという人間中心の社会をつくりましょうというのが現在の動きなんです。ソサエティーの1.0、1.1というのが狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報化社会として、人間中心社会というものに今シフトされていくわけです。そのために、個別最適化というのは、クラスの中に40人いれば、40人の子供の個別最適化もありますし、そうではなくて、支援を要するお子さんたちの個別最適化もあるわけです。そうすると、いろいろな情報を蓄積した形で、そしてビッグデータとして集めたものを教師が一時的に還元をし、高速の

中でデータを介して学ばせられるように個別最適化の学習を進めていく。そして、データを今度子供が活用して、自分に合った勉強を進めるという個別学習もあります。そのような非常に今の社会とは違ったシステム、これまではノートと鉛筆で授業を行ったものが、タブレットがそれに代わるわけなんですね。そういう社会になるということで、現在、委員さんがおっしゃっているように、本当に難しい社会であるし、早く取り組む必要があるわけです。

研修のステップとしては、第1段階として、クロームブックの操作とか、基本ソフト、アプリの活用の研修があります。第2段階としては端末を使っただけの指導法の研修、そして、最終的には個別最適化に向けた指導法の研修ということで、現在、国のほうでも試験的な事業を始めております。そういう意味で、日本の国がやはり世界から見ると情報化が遅れているんですよ。そういう意味で他の国から後れを取らないような形で学校現場にもこのような取組をお願いしたいというのがGIGAスクール構想になっておりますので、先を見通しながら、委員さんおっしゃるように、なるべく先手先手で見通しを持った形で事業を推進し、しかも、町のほうである程度のスケジュール管理をしながら進めていきたいと思っておりますので、これからもご助言等よろしくお願ひしたいと思ひます。

委員 長 （堀籠日出子君）

千坂博行委員。

千坂博行委員

以上で代表質疑を終わります。

委員 長 （堀籠日出子君）

これで社会文教常任委員会代表、8番千坂博行委員の代表質疑を終わります。

暫時休憩します。

再開は午後2時50分とします。

午後2時41分 休 憩

午後2時50分 再 開

委員 長 （堀籠日出子君）

再開します。

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、産業建設常任委員会代表、7番馬場良勝委員。

馬場良勝委員

それでは、最後になりましたが、産業建設常任委員会を代表して通告に伴い質問をいたします。

1件目でございます。観光振興策についてお伺いをいたします。令和3年度より、大和町レンタサイクル事業が始まるようでございます。この事業を観光資源としてどのように活用していくのでしょうか。

2件目、今後の下水道事業についてお伺いをいたします。今後の下水道事業経営戦略が示されたところでございます。収支面を見ると不安に感じるところもございますが、計画どおり行えるのでしょうか。

3件目です。子育て支援住宅の今後についてお伺いをいたします。各地区に子育て支援住宅の整備が進み、順調に入居されているようでございます。入居予定者を見ると、子供の年齢に偏りが見られるところでございます。今後、児童数の維持をどのようにお考えでしょうか。

以上、3件3要旨でございます。

委員長（堀籠日出子君）

答弁を求めます。町長浅野 元君。

町長（浅野 元君）

それでは、ただいまの馬場委員のご質問でございますが、初めに、観光振興策についてのご質問でございます。

町では、観光振興の施策の一つに、船形山や七ツ森の豊かな自然を活用した自然型観光を推進しております。特に七ツ森湖周辺は、近年、上流部に開業されましたワイナリー及び隣接するレストランの効果もあり、また、自然の体感を求めて観光客が来訪しております。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により、過密を避けるための動きもありまして、南川湖畔生産物直売所、花野果ひろばでございますが、この直売所や七ツ森生産物直売所、蠟梅の咲く頃等の七ツ森湖周辺の観光施設の観光客入り込み人数も昨年と比較して増加をしております。

このような中で、令和3年度に新たな試みとしましてレンタルサイクル事業を実施するものでございます。ご質問のこの事業を観光資源としてどのように活用していくのかであります。町の観光は、消費による経済効果と、観光誘客により交流人口を増大させて定住につなげる町のイメージアップのための手法の一つに位置づけております。自転車の楽しみ方には、乗る楽しみのほか、景色をより身近に感じることができ、子供から大人まで気軽に楽しめる乗り物で、健康増進、心身をリフレッシュする効果があると言われております。今回のレンタルサイクル事業を実施することで、豊かな自然を体感していただき、町の魅力を町内外に発信し、町の自然型観光の拠点であります七ツ森湖周辺に誘客するきっかけとして、周辺の観光、消費につながればとの思いから実施するものでございます。また、従来の観光だけではなくて、観光客のニーズを的確に把握しながら、町の魅力であります自然を体験して感じていただくため、サイクリングのほか、トレッキング等の体験型観光を今後推進してまいりたいと考えております。

次に、今後の下水道事業について、計画どおり行えるかについてであります。

下水道等事業につきましては、3月3日開催していただきました全員協議会におきまして、公共下水道事業及び農業集落排水事業並びに戸別合併処理浄化槽事業について、令和3年度を初年度として、期間10年間の経営戦略を説明させていただきました。

下水道につきましては、整備が概成し、施設の維持管理の時代となり、修繕等を行っているところであり、今後もストックマネジメントの活用によりまして、計画的かつ効率的な施設の維持管理、施設の更新を行っていくこととしております。

農業集落排水につきましても、平成18年度に供用を開始しており、下水道と同じく維持管理等にシフトしている状況であります。現状の維持管理を行いながら、使用料の未収金の回収、未接続者への接続勧誘も行いながら進めるものとしております。

戸別合併処理浄化槽事業につきましては、令和3年度より第4期目の5か年計画がスタートしております。今後も整備等を実施することとしておるところでございます。

本町の下水道3事業につきましては、現在、令和4年度より公営企業会計へ移行することとして準備を進めているところであります。公営企業会計につきましては、企業としての経済性を発揮するとともに、その本来の目的であります住民福祉の増進を図るため地方公共団体により経営される企業で、経済活動の実質あるいは全体像を捉えるのに有効な複式簿記が採用され、更新投資の優先度の把握、施設設備への投資の

合理化や適切な維持管理、効率化が可能となるもので、公営企業会計導入によりまして財政状況、経営状況を明確化し、透明性を確保しながら計画を進めてまいりたいと、このように考えております。

次に、子育て支援住宅の今後についてであります。

子育て支援住宅につきましては、平成21年9月の定例会議以降におきまして、宮床、吉田、鶴巣、落合地区の少子化対策に向けたご質問をいただきながら、これまで4回の一般質問や全員協議会等により議論を重ねてきたところでございます。その中で、現在の小学校を閉校や統合をせずに維持するための対策をとのご意見も考慮いたしまして、平成29年度より4地区への子育て支援住宅整備に取り組んでいるところでございます。

昨年、入居者募集をいたしました吉田、鶴巣両地区につきましては、吉田地区で1回、鶴巣地区は3回の募集を行い、予定していた11戸全てにおきまして入居いただいているところでございます。また、落合地区につきましても、4月1日からの入居開始に向け、2月21日に入居予定者の抽せん会を開催し、募集戸数16戸に対しまして17世帯の方々よりご応募をいただき、3地区で整備いたしました全戸数の27戸の入居者等が決定したところでございます。入居される方々は、町外から転入される方が7世帯、町内からの方が20世帯となっており、入居されるお子様は、来年度入学される新入学児童を含めました小学生8名のほか、6歳児3名、4歳児から1歳児までのお子様32名を合わせまして、合計43名となっております。

また、令和3年度には、宮床地区に4戸を整地いたしますほか、吉田地区には2戸を増築し、さらなる拡充を図ってまいります。

ご質問の子供の年齢に偏りが見られるが、今後、児童数の維持をどのように考えるかについてですが、本年度に転入学をされた小学生は、吉田・鶴巣地区両地区、それぞれ、おのおの2名の4名が、来年度は吉田・鶴巣地区でそれぞれ1名、落合地区2名を合わせまして、児童生徒数の合計は8名となり、令和4年度には鶴巣地区と落合地区を合わせまして3名の方の入学が見込まれ、子育て支援住宅から小学校に通う児童生徒数は11名となるものです。さらに、令和6年以降は、落合地区で3名から7名、鶴巣地区では2名から4名のお子さんの入学が見込まれております。このように、現在入居いただいているの方々によりまして一定数の児童生徒が毎年のように入学いただける状況が見込まれるところではございますが、今後も継続して児童生徒の確保等が図られるよう、議会の皆様のご意見を伺いながら検討してまいりたいと、このように考えております。

以上です。

委員長（堀籠日出子君）

馬場良勝委員。

馬場良勝委員

それでは、再質問をいたします。

まず、レンタサイクルについてお伺いをします。

今ご答弁にございました自然型観光ということで、今回、特別委員会の中でもこれまでにないぐらい各委員さんからいろいろな、むしろ歓迎の質問が多く出たところでもございました。非常に私も、やっとうこういう観光に関する新しい事業が出てきて、非常に評価をさせていただきたいところでございますが、やっぱり単発感が否めないというか、その事業については非常にいいんだけど、やっぱりちょっと遅かった感もありますし、もう少し早くやっていただけてよかったんじゃないかなとも思います。

つい一昨日でしたかね、テレビで大和町を通る番組がございまして、自然が豊かな町というふうに報道、放送されておりましたね。そういう意味ではやはり注目もある程度高いのかなと。偶然なのかあれなのか分かりませんが、本町は自然豊かなところで、それを生かしてということで、町長の今のご答弁の中にトレッキングという話も入ってまいりました。非常にいいことだなと思います。ただ、やっぱりどうしても後手後手が感じられてしまうところございますが、今後、今これから始まる事業ですけども、これは新しいのをどんどんやっていかないと、皆さん、やっぱり飽きるんですね。これは非常に観光の難しいところだと思うんですけども、今後、さらに町長がここからもう一段ギアを上げるような施策、どういうものをイメージされるのかどうかをまずお伺いをしたいと思います。

それから、下水道事業についてお伺いをします。

やはりこれなかなか難しく、将来の事業環境というところを見ますと、処理区域内の人口は令和5年度をピークに減少ということで、やっぱりこれは使用していただかないとその使用料なりなんなり、そして先ほどご答弁いただいたとおりに接続していただかないと、やっぱりこれは上がらないんですね。課題は何かというと、自宅のそばまで要は管は来ているんだけど、そこまで引くのはその住んでいる方のね。これはある程度当然かとは思いますが、ただ、それができない方も中にはい

て、やりたいんだけどできないという方も中にはいるとは思いますが。その辺について、まず町長のご意見をお伺いしたいと思います。

それから、やはり事業戦略の中で令和7年、8年あたりがちょっと厳しい感じだったんです、金額でいうとですね。宮床農集排ですか、それを接続という事業もある程度構想の中にあるようですけれども、その2点についてどのように町長がお考えかお伺いをしたいと思います。

それから、子育て支援住宅についてお伺いをいたします。

今、ご答弁の中で、来年、再来年か、令和2年度、3年度というお話ございましたが、今入っていらっしゃる方で4歳から1歳が32名ということで、やっぱりその世代はいっぱいいて、落合、鶴巣、ある程度複式にならないように小学校を維持できると思うんですが、その前後、例えば6年生になって、子育て支援住宅は15歳まで住むことができますので、中学3年生になるまでね。ということは、小学校を卒業してからの3年間、そこはまず要は小学校に入っていないわけですから、そこは空白になると。今度、新たに新しい方が入ったときに、例えば1歳、2歳の方であれば、またそこから小学校に入るまで5年か6年空くわけですよ。都合7年から9年ぐらい、普通に計算すれば空いていくわけですね。ということは、その間の小学校の人数というのは、やっぱり地域のその子供たちに入ってもらえないんですけれども、実は地域に子供がいなくてこの施策をやっているわけで、私は、子育て支援という意味では非常にいい施策だと思います。ただ、学校を維持するという部分に関しては、もう少し努力が必要なのかなとも考えますけれども、その点について町長からご答弁をいただきたいと思います。

委員長（堀籠日出子君）

町長浅野 元君。

町長（浅野 元君）

まず初めに、観光関係でございます。

今回、レンタサイクルという形で、新たな事業として取りかかろうとしております。今回いろんなご意見も頂戴して、大変ありがたく思っております。今後どうするかというか、どんなイメージですかということですが、前に、前にといいますか、常に思っているのが、私、点から線へ、線から面へというお話を、お話といいますが、そういったイメージは持っているところでございます。大和町は非常に面積が広く

て、そこからそこに行くまでの間というのは結構な距離感といいますか、そういったものもある中でございますので、なかなかすぐにぼんぼんに行ける状況ではない中であります。そういったところの一つとしてこのレンタサイクル、つなぐという部分ではですね。あのエリアだけにはなりますけれどもね。そういったこと、そういったといいますか、一つの手だてだというふうに思っております。

また、さっきちょっと言いましたトレッキングということで、これにつきましてはもう実施しております、大森山等々ですね。実施して大変好評だというふうに聞いております。それで、意外だったのは、意外という言い方がおかしいんですが、トレッキング、あれのイメージだとどっちかという高齢の世代が結構来ているのかなというのがあるんですが、若い方も入ってきて、入っているとといいますか、参加していただいているということです。そういった意味では、そういった方々も同じように興味を持ってきてくれるんだなというふうに認識しましたし、新たにそういったターゲットを広げていくといいますか、そういったことも大切なんだろうというふうに思っております。

どんなイメージでということになりますと、お客さんが来てもらってということにはなるわけでございますけれども、今回自転車ということでイメージをしました。実は自転車、結構ここはロードバイクとか、ああいった方々も利用されるといいますかね。それで練習コースなんかにもなっていて、小説なんかにも出ているとお話したことありますけれども、そういったことがありますので、そういった特徴を活用するというものの一つとして今回スタートしておりますが、例えばそういったものを広げるとかといったこともあるのかなというふうに思っております。なかなかこれといった手だてが、これがばんと一つあればということではないので、一つ一つつなげていくということになってくるというふうに思いますが、その線、面ですね。こういったものをつなげるための手だて、考えといいますか、そういったことが大切になってくると思っております。今、じゃあ、次何やと言われてもなかなか出てこないところがありますけれども、そういった形で、今近場の自然環境のいいということで皆さんがそのように、先ほどテレビ放送でもあったというふうに気づいてもらっているところもありますので、そのよさを十分に生かした中での観光資源有効活用を今後もやっていきたいというふうに思います。

それから、上下水道、下水道関係でございますが、先ほど門口まで来られないという話がありました。前、農集排などをやった場合に、財産区の協力をいただきまして、一定の門口までは大体持ってきていただいております。どうして

もその先ということもあろうかというふうに思いますけれども、あと、今つなぐ人はつないだという言い方もおかしいんですが、後継者の問題といたしますか、そういった家庭の事情、考え方もあるところでございます。これは合併浄化槽についても同様のことが言えると思いますけれども、そういった個々の管への考え方ですね。そういったことについてのご事情もいろいろある方がだんだん残ってきているケースも多いものですから、辛抱強くお願い、ご協力をお願いするとか、そういった形の活動をしていかなければいけないのではないかとこのようにも思っているところでございます。

それから、子育て支援でございますが、おかげさまで多くの方々に入っていて、そして入居、今のところ入れる状況の満杯の人に入っていております。お子様方も大勢おいででございますが、小学生、年別に上手にいくということにはいかないものですから、今後そういったものの隙間といたしますか、そういったことも当然考えられるというふうに思っております。

今、学校のほうで、例えば落合地区で今回特徴ある学習ということで、来年度からですか、4月から実施させていただきますが、そういったものの効果というか。それを広げるとか、そういったこともあろうかと思いますが、ただ、これはやっぱり多くの方々のご意見を聞きながら進めなきゃならないところがありますので、一概に次、次、次という問題とはまた違うと思いますけれども、方法の一つとして、そういったことは一つなのかなというような思いもでございます。これもなかなか特効薬がなく、今までこうやってきた中でございますので、大変、こうやりますということが一番いいんでしょうけれども、なかなかそれが出てこないところがありますけれども、一つずつ、1段ずつ上がってきて、学校の少人数のところに入れる体制も教育委員会の皆様のご努力の中で進んできておりますので、そういったものをしっかり一つ一つ積み上げてまいりたいというふうに思います。

委員長（堀籠日出子君）

馬場良勝委員。

馬場良勝委員

本当にレンタサイクルについては待ち望んだ事業でございますので、ぜひ成功、何をもって成功というのか私は分かりませんが、いろんな方が何回も使ってもらえるような事業になるといいなと思っておりますし、今、キャンプがはやっていて、それとともに山を売る人もいっぱいいて、山を買っちゃう人が随分いると。そのぐら

いやっぱりキャンプだったり自然という方向に、どうしてあれなのか、社会がぎすぎすしているからなのか分かりませんが、やっぱり自然のほうにという回帰をしている部分があります。そういう意味では、やっぱり非常にいろんなものをね。いっぱいあり過ぎても困るんですが、やっぱりいろんなアクティビティーというんですかね、そういうものがあるとか。例えば、車で、キャンピングカーを持ってきて泊まるとかですね。そういう場所あってもいいと思いますし、やっぱりいろんなその自然に、自然型観光というんですか、そこに基づいた施策をやっぱり今後ずっと次々やっていかなければ途切れてしまうと私は思います。あまり手を入れ過ぎるのもよくないと思いますけれども、やっぱりいろんな選択肢も準備すべきだと思いますので、そういう部分での町長のお考えを最後に1点お伺いをしたいと思います。

それから、下水道事業なんですけれども、これ、多分、公営企業会計に移すのが総務省の頭の1点と、ほかの自治体で管路の更新とか結構行われていない部分があって、それを多分総務省、国のほうでつかんで、どのぐらいお金かかるのかというのも見たいという部分もあるんだと思いますね。我が町は幸いそこまでは心配はしておられないところですけども、先週の3月10日ですか、水が噴き出したと言われてちょっと私もびっくりして行ったんですけども、あれはちょっと事故だったので、そんなに心配はしていない。管路も新しかったんですけども、上水でしたし。やっぱりなかなか見えにくい、本当に町民の皆さんには見えにくい仕事、そして管路なんですけれども、これはやはりしっかりとやっていかなければいけませんし、大和町の最大のネックは、町長もおっしゃったよう距離が長くて、管網が長いんですね。だから、そこはやっぱり今後、人口減社会に入っていくときにどういうふうにその下水道事業及び上水もそうですけれども、今回は下水の質問をしていますから下水道に限りませんが、今後さらにどういうふうな、必要なものをというご答弁でありましたが、効率的にということもありましたが、今度、あんまり非効率的に過ぎると、逆説を言うてしまうんですけども、今度切られていく人たちが出てくるようなことが起こり得なくもないので、やっぱりここは効率的及び町民の方々に安心して使っていただけるような運営をしていっていただきたい。その辺についてご答弁をいただければと思います。

それから、子育て支援住宅でございます。

これ、非常に地域の方々からは期待が大きくて、もう皆さんすごく盛り上がっているんですね。でも、やっぱりちゃんと見ると、先ほど町長おっしゃったように年齢の、私も言いましたけれども、年齢のちょっとずれというんですか、空白の世代が出

てくるんですね。そういう意味では、町長先ほどおっしゃいましたけれども、やっぱりあくまでもこれは一つの手段であって、さらなるてこ入れをしないとやっぱり小学校はなかなか。その複式にしないという目標のためには、なかなか難しい。先ほど、前段で千坂委員からもありましたけれども、これからだんだんタブレットを持って、どこにいても大体同じような、特色あるという教育方針ですけれども、どこに行ってももう授業を受けられる、普通の授業は受けられるような状態になりますから、そういう意味では逆にやりやすいのかなというふうに私も感じます。あるいは、ほかの地域の学校の授業風景をタブレットで見られたりね。今後いろんな使い方ができると思います。そういう意味では、やっぱり子育て支援住宅に力を入れるとともに、その学校の生徒数維持というほうにももう少し力を注いでいくべきだと思いますけれども、お考えを聞いて終わりたいと思います。

委員 長 （堀籠日出子君）

町長浅野 元君。

町 長 （浅野 元君）

観光でございますが、大和町の場合はやはり自然型観光といいますか、これがメインだというふうに思っております。昨今キャンプも確かにはやってきているといいますか、そういったことで山を買うという、確かにそういう話、テレビなんかでもよくやっています。逆に開発しない山をそのまま使いたいということがあるんでしょうが、一人でキャンプに来るという時代で、よくおっかなくねんだなと私は思ったりするのもあるんですけれども、やっぱりそれはその時代といいますか、考え方と……。ですから、逆にこのキャンプなんかの場合だと、あまり整地しては駄目だとか、そういうこともあるのかもしれない。やっぱりその動きといいますか、その考え方、そういったものがその都度その都度いろいろ動きがあるものですから、それに的確に対応ということも大切なんだと思いますし、また、あまりはやりに乗っかっちゃって駄目になる、駄目といいますかね、そういうこともあるというふうに思っています。

ただ、基本的には、大和町はその自然観光、何回も繰り返しますが、そういうことで船形山から七ツ森からということでもあります。分かってもらえる人には十分分かってもらっているんですが、それを広げるということなんでしょうかね。この間、前にもちよつと言いましたけれども、麓にはさとう宗幸さんが毎月来ているとか。そういうお話もあるわけでございます。よさを分かってもらっている方が多くいると思

ますので、それを広げていくということ。そのための選択肢はどういう方法があるかいろいろ考えなきゃならないですけども、これで終わりということではなくて、そういった間口を広げるということは非常に大切なことだというふうに思っております。そういった努力をしてまいりたいと思います。

それから、上下水道になりますが、そのとおりに見えない部分でありまして、見えれば非常に分かりやすくやれるんでしょうけれども、なかなかできないということがあります。町では、ストックマネジメントといいますか、そういった形で先行してといいますか、そういった維持補修といいますかね。そういったことに努めておりますので、なお、そういったことをしっかりやっていかなければいけないというふうに思っています。ただ、金が非常にかかってくるので、この辺を考えながらやっていかないと、そのとおりに経営と併せた形の中でバランスを見ながらということになってまいりますけれども、だからといって、決してこっちをないがしろにするとかということではなくて、そこはきちっとやっていきたいと思いますが、その収入支出のバランスというのはもともと全然違う状況ですけども、その中でもやっぱり長期的なものを見た中での対応、維持管理といいますかね、そういったものをしっかりやっていかなければいけないというふうに思っております。

それから、学校関係につきましては、これも繰り返になってしまうところはあるんですけども、一つ一つの政策の積み重ねといいますか、そういったことだというふうに思っています。いろんな議員さん方からもご提案、ご意見をいただいて、そういったことについて、できるものできないものあるわけですけども、そういったことをやりながら積み上げていくということが大事なんだと思っております。

あとは、せっかく若い人たちが今入ってきてもらっておりますので、この人たちからの情報発信というか、やっぱり来てよかったですよとか、この学校がこういういいところがありますよとかという、そういうような発信もしてもらおうと、もともと住んでいる人とは違った意味での、さっき児玉委員さんのあれではないですけども、いろんな見方があったり。そういう情報の発信によって、新たな人がこちらに目を向けてくれるとか、そういうこともあるのではないかというふうな思いもありますので、そういったこともいろいろ考えながら努力してまいりたいというふうに思います。

委員長（堀籠日出子君）

馬場良勝委員。

馬場良勝委員

以上で私の代表質問を終わります。

委員長（堀籠日出子君）

これで産業建設常任委員会代表、7番馬場良勝委員の代表質疑を終わります。

以上で代表質疑を終わります。

これで、予算特別委員会に付託されました令和3年度の各種会計予算の審議は終わります。

お諮りします。令和3年度の各種会計予算については討論を省略し採決したいと思います。これにご異議ありませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり

異議なしと認めます。したがって、令和3年度の各種会計予算については討論を省略して採決します。

お諮りします。令和3年度の各種会計予算については一括採決したいと思います。賛成の方はご起立をお願いします。

〔賛成者起立〕

一括採決に反対者がありません。

会議に付された事件は1事件1処理の原則によるものとされております。一括採決の条件は、議員全員が賛成の場合のみ認められるものであり、お一人でも反対される方がいる場合は一括採決できないことになります。

よって、本特別委員会における令和3年度の各種会計予算につきましては、各会計ごとに採決します。これらの表決は起立によって行います。

議案第20号 令和3年度大和町一般会計予算を採決します。

本予算は原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

起立多数です。したがって、本予算は原案のとおり可決されました。

議案第21号 令和3年度大和町国民健康保険事業勘定特別会計予算を採決します。

本予算は原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

起立多数です。したがって、本予算は原案のとおり可決されました。

議案第22号 令和3年度大和町介護保険事業勘定特別会計予算を採決します。

本予算は原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

起立多数です。したがって、本予算は原案のとおり可決されました。
議案第23号 令和3年度大和町宮床財産区特別会計予算を採決します。
本予算は原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

起立多数です。したがって、本予算は原案のとおり可決されました。
議案第24号 令和3年度大和町吉田財産区特別会計予算を採決します。
本予算は原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

起立多数です。したがって、本予算は原案のとおり可決されました。
議案第25号 令和3年度大和町落合財産区特別会計予算を採決します。
本予算は原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

起立多数です。したがって、本予算は原案のとおり可決されました。
議案第26号 令和3年度大和町奨学事業特別会計予算を採決します。
本予算は原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

起立多数です。したがって、本予算は原案のとおり可決されました。
議案第27号 令和3年度大和町後期高齢者医療特別会計予算を採決します。
本予算は原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

起立多数です。したがって、本予算は原案のとおり可決されました。
議案第28号 令和3年度大和町下水道事業特別会計予算を採決します。
本予算は原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

起立多数です。したがって、本予算は原案のとおり可決されました。
議案第29号 令和3年度大和町農業集落排水事業特別会計予算を採決いたします。
本予算は原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

起立多数です。したがって、本予算は原案のとおり可決されました。
議案第30号 令和3年度大和町戸別合併処理浄化槽特別会計予算を採決します。
本予算は原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

起立多数です。したがって、本予算は原案のとおり可決されました。

議案第31号 令和3年度大和町水道事業会計予算を採決します。

本予算は原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

起立多数です。したがって、本予算は原案のとおり可決されました。

これで本日の日程は全部終了しました。

会議を閉じます。大和町議会予算特別委員会を閉会します。大変ご苦労さまでした。

3月8日から本日まで皆様方から多大なるご協力をいただき、委員長の重責を全うすることができましたことに感謝を申し上げます。おかげさまで予算特別委員会を滞りなく終了することができました。このことに改めて感謝を申し上げ、委員長の座を降りたいと思います。大変ありがとうございました。

午後3時30分 閉 会